ふるさとの礼

平成18年5月10日（2006年）野間顕彰会だより　6号

□発行編集/野間清治顕彰会　〒376－0022群馬県桐生市稲荷町1番地の4　桐生市立図書館内　TEL 0277－47－4341

雑誌王野間清治に魅せられて

コレクター　桑原昭二

私は野間一家が移り住んだ長屋に生まれ育ったこともあって、教員から「日本の雑誌王」といわれた、野間清治なる人物に関心を持つようになったのかもしれない。

野間清治が死の二年前に出版した自伝「私の半生」に「私の父は野間好雄、母は文、諸国を武道で巡ったときは留雄と申しました」と記されている。

野間家は上総飯野二万石の小藩の家臣（現在の富津市に陣屋のあった。）勤皇か佐幕かにゆれ、明治維新で武士としての食録を失い、武術試合を興行ものがわりにして、関東を流浪しながら任侠の上州の地、群馬県山田郡新宿村（現在の桐生市新宿）に定住した。そして明治十一年十二月十七日野間清治は生まれる。

その後の清治の教員生活については、これまで、多くの方々がふれているので、ここでは詳しく省くが、明治二十五年東京帝国大学内中等教員養成所を相生尋常小学校在職のまま受験、合格するが入学出来ず紆余曲折の末、暑中休暇後に入学、二年間の修学の後、沖縄中学校、教諭・沖縄県視学を勤めた後、東京帝国大学法科大学主席書記に迎えられ、学内の緑会弁論部設立に尽力した。

この弁論集「雄辯」を創刊、野間清治が「雑誌王」と呼ばれる原点となる。

その後大日本雄辯會講談社を設立、「講談倶楽部」「少年倶楽部」「婦人倶楽部」「面白倶楽部」「現代」「婦人倶楽部」「少女倶楽部」「キング」「幼年倶楽部」の九大雑誌を刊行日本で百万部を超える国民雑誌となり、日本のみならず世界の雑誌王となる。

今回の「野間清治展」は九大雑誌のポスター・付録を展示するにあたり、目玉となる少年倶楽部の門外不出の大型模型三点「世界一高いエンパイヤビルデング」「大型飛行機」「夜光名古屋城」を講談社の特別計らいでお見せすることができ、私が描いた理想の展示会が出来たと自画自賛している。

私が「野間清治」のコレクションを始めて二十年近くになるが、想いは埼玉県深谷出身の「渋沢榮一」にある。あの町に行くと記念館があり、スナックで飲んでいても「俺が町の渋沢榮一」郷土の誇り、大先輩と自慢する。

我が町桐生にも先人が多いが忘れさられている。

ある人の話に「野間清治」は渋沢榮一を超えても渋沢榮一以下ではないと！

私のコレクションのこの展示を通して、町の人達がこぞって異口同音に「俺が町の野間清治」と自慢出来る素晴らしい郷土の先輩を再確認出来ればと思っている。

昨年南小学校東角地に地元先輩を敬うシンボル「生誕之碑」が建立されたことにより、新しい文化教育も語らいの場となることに期待を寄せている。

五月六日浜田博信講談社最高顧問・木村社長室次長の激励の来桐喜びとなった。

少年倶楽部（昭和32年2月号付録）
世界一高いエンパイヤビルデイング